

国道232号道路法面 カシワによる植栽試験

萌州建設（株）

< 植栽試験実施箇所 >



※北海道科学大学名誉教授の岡村俊邦先生の指導で進めています。

< 植栽試験を行う目的と課題 >

① 現地の状況

- 海岸に近く潮風が強いため、周辺斜面に成育できる樹木はカシワだけである
- ササ類が繁茂している斜面は、ササ類が冬期間倒伏するため、積雪が滑りやすく、雪崩が発生しやすい
- 部分的に自然侵入したカシワの稚樹が見られるが、ササ類が覆い被さって陰になり、根系の競争もあるのか成長しづらい
- 雪崩防止のために鉄杭を打ち込んでいる

② 試験植栽の意義

- カシワを繁茂させて環境保全上、景観上望ましい樹林を再生し、将来的に雪崩被害の軽減を図る
- 国道232号強靱化の工事により、広大な道路法面が出現するので、それに備えてカシワの植生導入方法を試行する

③ カシワ植栽・成育における問題点

- 海岸線に成育するカシワのタネや苗の市場での入手は困難
- カシワのタネの結実は3年に一度ぐらい（2019, 2022年）
- タネを播種するとネズミの被害を受ける
- 斜面が安定し、雪崩に巻き込まれず、ササや草本との競争を乗り越えれば成長できる

<2019年の実施内容>

- ① 斜面のササ類を刈る
- ② 防草シートを貼る
- ③ カシワを植栽する
(防草シートの穴、雪崩防止杭の下)

カシワのタネの数
防草シート内
 $13 \times 3 \times 3 = 117$
雪崩防止杭の下
 $14 \times 3 \times 3 = 126$
総計 243粒



植栽状況



斜面の植栽試験状況



2020年6月の発芽状況

<2020年の実施内容>

- ① 実生苗に印をつけ、ダメージを与えぬようにササ類を刈る
- ② カシワのポット苗を植栽する (雪崩防止杭の周囲と防草シート内)
- ③ 植栽したポット苗に印をつけ、実生苗とポット苗の位置を記録する



カシワのポット苗



カシワの自然侵入

カシワの自然侵入

ポット苗植栽と防草シート貼付

<2022年カシワの生存状況>



2022年10/19

苗の成長



2022年10/19

自然侵入の稚樹の成長



2022年6/7

<2022年時点のカシワの成長状況>

- ・豪雪により斜面はダメージを受けたが、一部のカシワが生存している
- ・防草シート三箇所のうち1箇所の苗が健全に成長している（33%）
- ・その他に12本の苗が生存している
- ・自然侵入のカシワは健全に成長している
- ・2022年はカシワのタネが豊作だったので、96ポットの苗を育てている



2022年11月一部の雪崩防止杭打ち直し

<2019年～2022年の植栽・調査結果>

項目	2020年	2022年
斜面の状況	カシワ苗に影響のないようにササを刈る	大雪で斜面がダメージを受ける
2019年 播種 243粒	17本/243粒 (7%)	
2020年ポット苗植栽		12本成長
杭の下	58ポット植栽	
防草シート内	3箇所 1ポットずつ	1ポット2本成長
自然侵入	2箇所確認	2箇所順調に成長

<2023年カシワの成育状況>

草本繁茂に負けず、育つカシワ



発芽したポット苗

<2024年ポット苗植栽に向けた準備>



防草シートによって草本が枯死し、土壌が柔らかくなるはず。来春に防草シートに穴を開けてポット苗を植栽する予定

ポット苗は、岡村先生が運営する実生銀行本店に預けて育てています